

漢字かな交じり文を書く (5)

締切り

五月二十五日（必着）

◎書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」

「漢字かな交じり文」の三つがあります。

◎「漢字かな交じり文」は、実用書としてはあたり前のことですが、芸術書としては比較的新しい分野で、近代詩文書とか調和体と呼ばれています。

団体によっては、新和様とか新書芸という呼称もあります。

◎今月のお手本は、自由な構成・書きぶりで、より詩の心が豊かに伝わってきます。皆さんもそれぞれに表現してみてください。

◎ 誰にでも読めて、言葉の感動をストレートに表現できる「漢字かな交じり文」の世界をお楽しみ下さい。

※落款（氏名）も作品の一部として、作品の最後に書き入れて下さい。

□ 作品の出し方

▼硬筆部 B 5 判（二五七mm×一八二mm）以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。（黒色に限る）

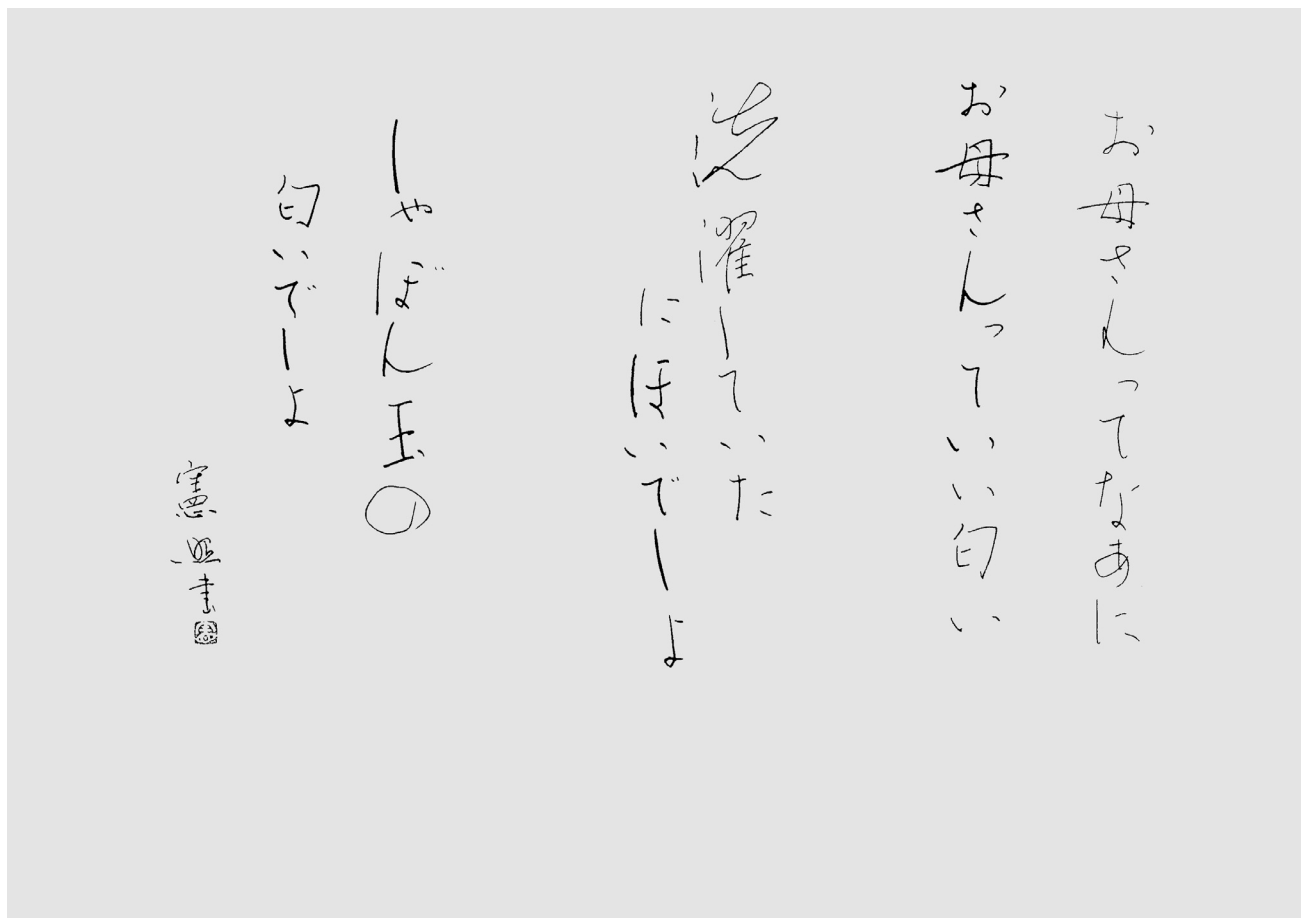
▼毛筆部Ⅱ半紙に書いて下さい。筆ペンも可です。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績（毛筆の場合は毛筆漢字の成績）を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

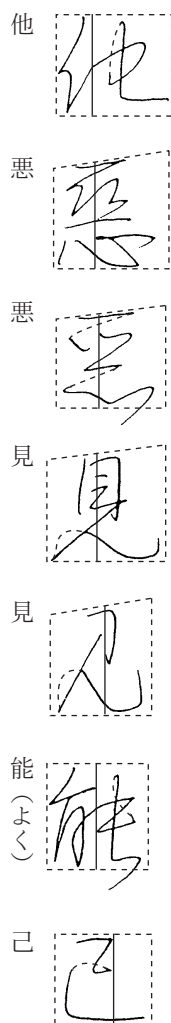
奥村憲照先生書



準初段から六段まで

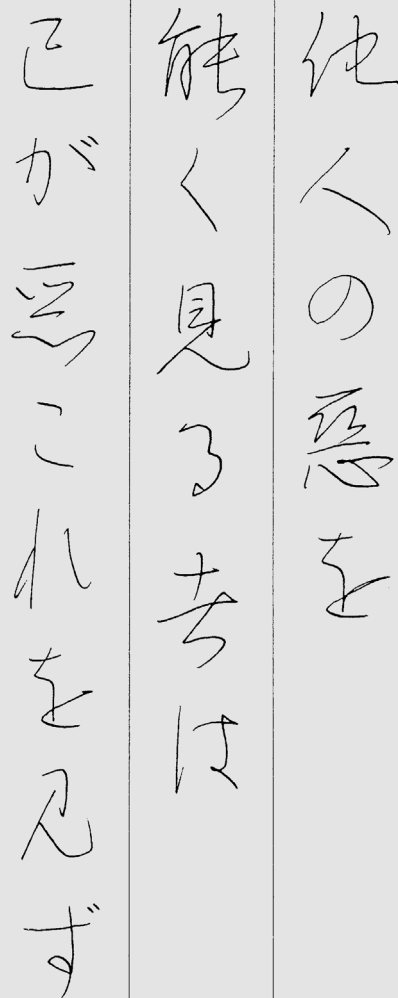
新入から1級まで

〔解説〕



行書体は形態の動的な美しさのリズムの変化等で芸術性を高めようと書くことが大切

▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。

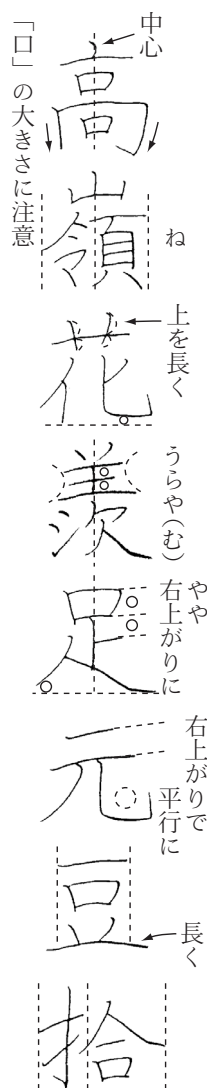


おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

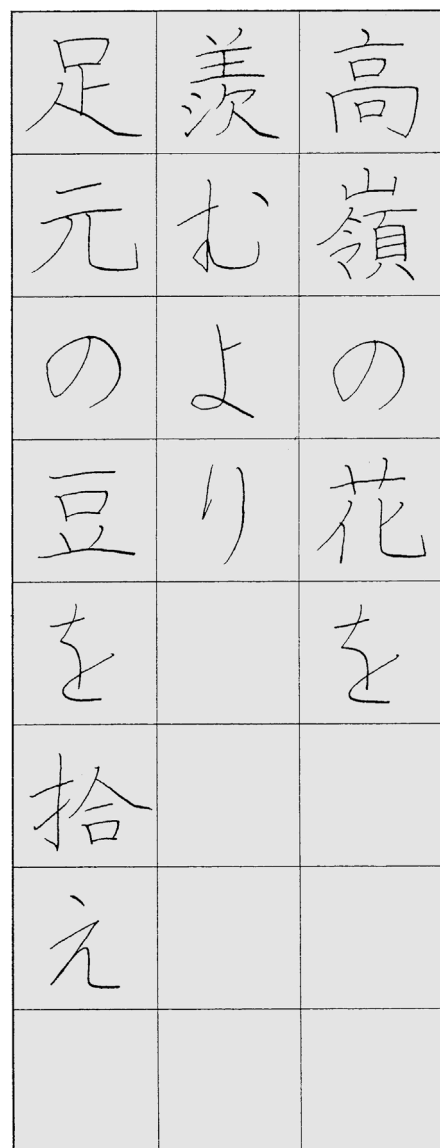
▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



「口」の大きさに注意



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★高嶺の：（書体Ⅱ楷書）

日本のことわざ

「高嶺の花」は、高い山の頂きに咲く花のこと。遠くからただ眺めるだけで、手に取って自分のものにするのでできないことのたとえです。

大望を抱くことはよいのですが、夢のようなことばかり考えずに、現実を目を向け着実に歩んでいくことが大切であると教えています。

◆6月課題予告（行書）

強い意志には
能力不足なし

フランス

★他人の：（書体Ⅱ行草または草書）

足利尊氏（三〇五～三五八）

室町幕府初代將軍

人は往々にして、他人に厳しく自分には甘くなりがちです。他人の欠点にはすぐ目について非難してしまいがちですが、自分の欠点には中々気づきません。それを戒めることわざに「人のふり見て我がふり直せ」があります。心したいものです。

◆6月課題予告（楷書）

人間こそ笑い

かつ泣くところの

唯一の動物である

▼教範・書範Ⅱ行草または草書

▼師範Ⅱ行書

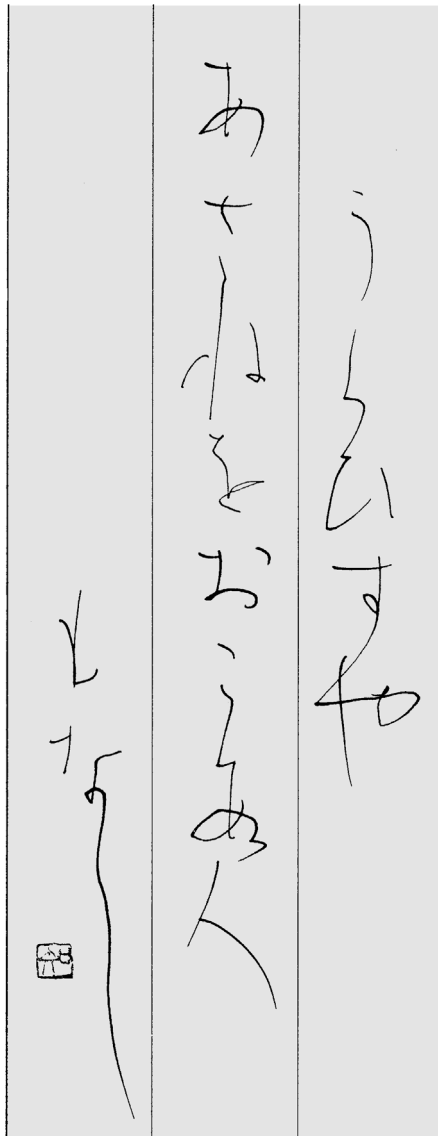
一般部かな課題

締切り 5月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

鶯^{うぐひす}や朝寝^{あさね}を起す^{おこ}人もなし^数

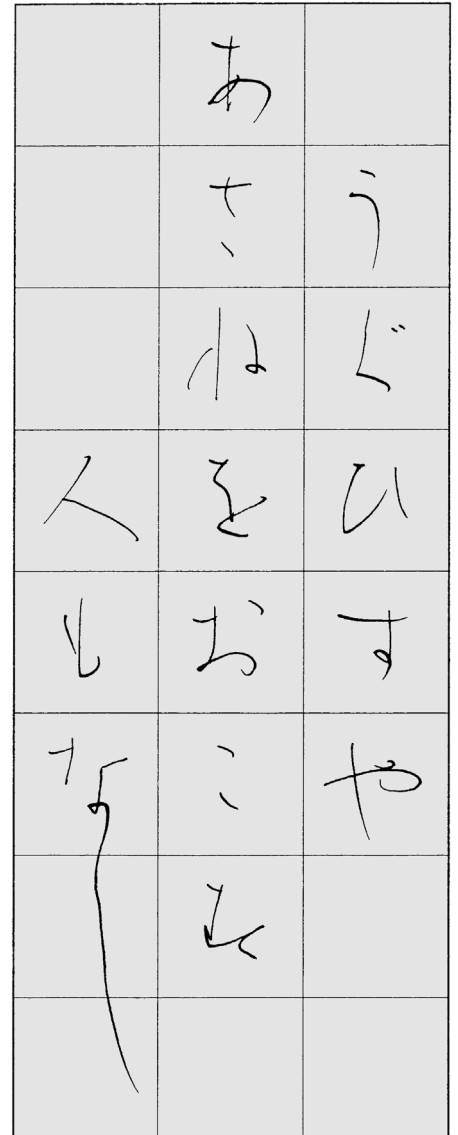


こ だま ち せん 書
児 玉 知 泉

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

鶯^{うぐひす}や朝寝^{あさね}を起す^{おこ}人もなし^春



こ だま ち せん 書
児 玉 知 泉

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

鶯^{うぐひす}や朝寝^{あさね}を起す^{おこ}人もなし^数

(正岡子規)

〔出典〕日本文学全集69 現代句集

〔解説〕

奈^な 余り丸くしない

な な な

数^す ゆったり

ぬ あ あ

春^{はる} すっきり

し し し

◎段位課題の「すや」は連綿線が長く、少し無理があるのですが、動きがはっきりと書きました。

◎少し遅いのですが、流れがどこかにいるので「なし」を連綿にしました。「な」の回転から「し」が引き出されていますので、当然「し」は行の中心には来ません。

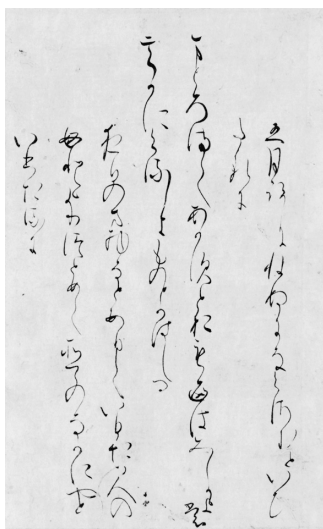
◆6月課題予告

家も木も皆 萍^{うきくさ}とさそはるゝ

(正岡子規)

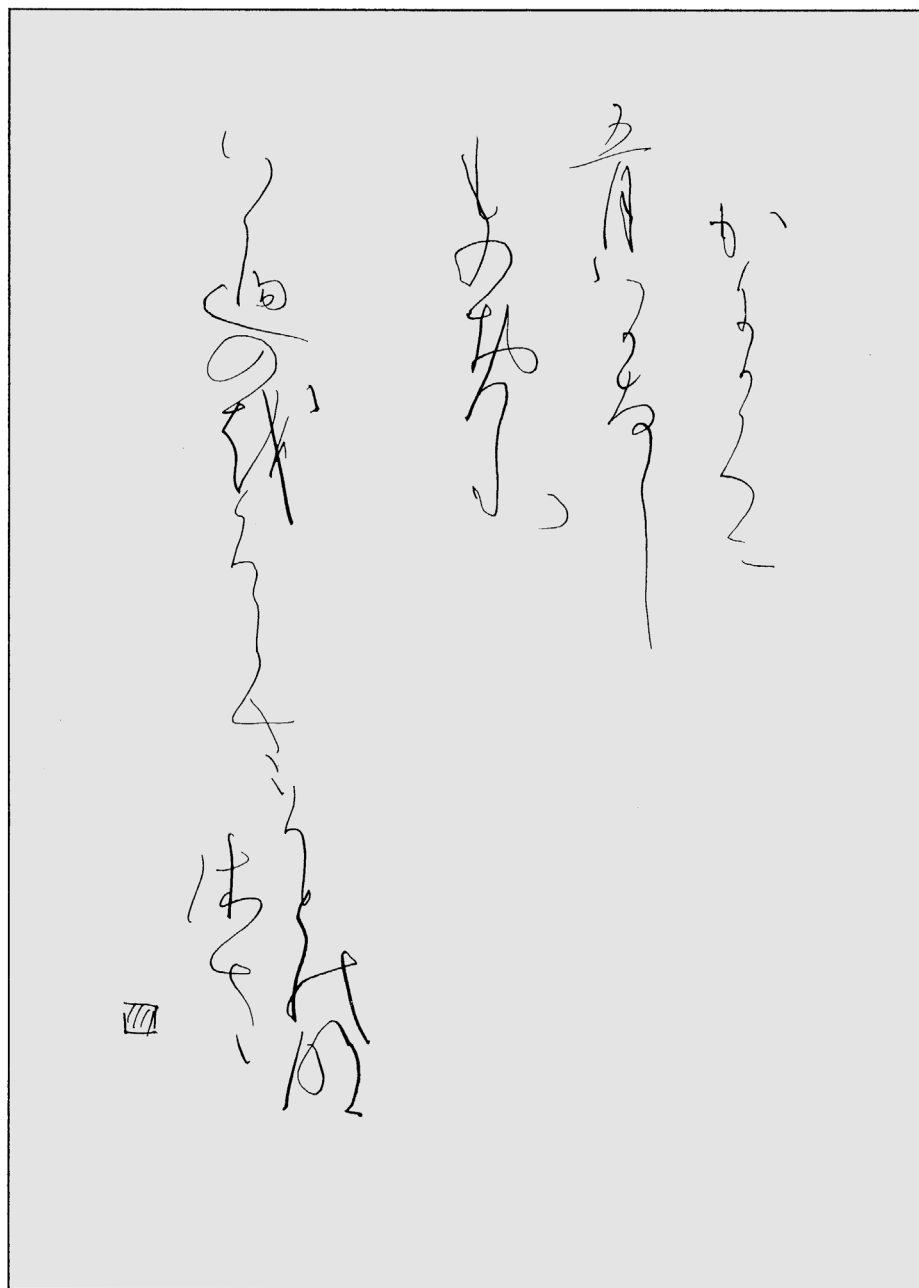
〔古筆参考〕

いずみ しき ぶ ぞくしゅうぎれ
和泉式部続集切



締切り 五月二十五日（必着）

築瀬舟香書

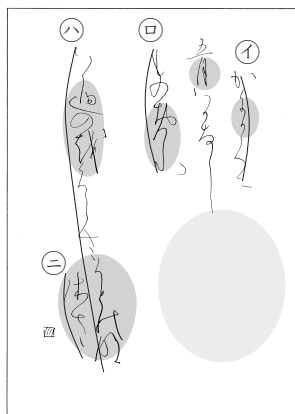


五月許にねぬになくさむといひ
万類多るに
満天可須於毛遍
まろまてあかすとおもへはみしかよも
意可いかにくるしきものとかはしる
夜日万奈奈
よひのま物なとあひていひたる人の
母登利徒天所奈可
もとよりつとめてそてのなかにやと
いひたるに

かにかくに皐月は悲しもの思ふ
家の小暗さ外の明るさ

〔歌意〕このようにいろいろと皐月は悲しいものです。物思いにふける家の中は外の明るさのためいっそう小暗く見えるのです。

〔出典〕名歌即訳 与謝野晶子
〔解説〕



・①と②、①と③、①と④、それぞれ呼応。

・①の行と②の行で二行目を包み込む。
・①の行の中の密の部分、密の動き大切。

・③大きな間に注意。

・「お无ふ」のように文字が短縮されている技法を仮借連綿といい、一口に短縮形といっています。

「和泉式部続集切」の中の複合体

文字と文字を近づけて連綿線を短くし、あたかも一字のように見せるテクニクなのです。かなの場合一字の単体造形で美しさが表現出来ませんので数文字を連綿させて造形美を考えるのです。「おもふ」がそれです。

◆6月課題予告

うば玉の髪より白き簾より
涼しきいろの矢ぐるまの花

（与謝野晶子）

締切り 5月25日(必着)

私の誕生日に、息子が「オペラ座の怪人」の券を贈ってくれました。きらびやかな舞台や衣装、美しい歌声と踊りに酔いしれるステキな時間でした。数年ぶりのデートで少し若返ったような気分です。

私の誕生日に、息子が「オペラ座の怪人」の券を贈ってくれました。きらびやかな舞台や衣装、美しい歌声と踊りに酔いしれるステキな時間でした。数年ぶりのデートで少し若返ったような気分です。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか じま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

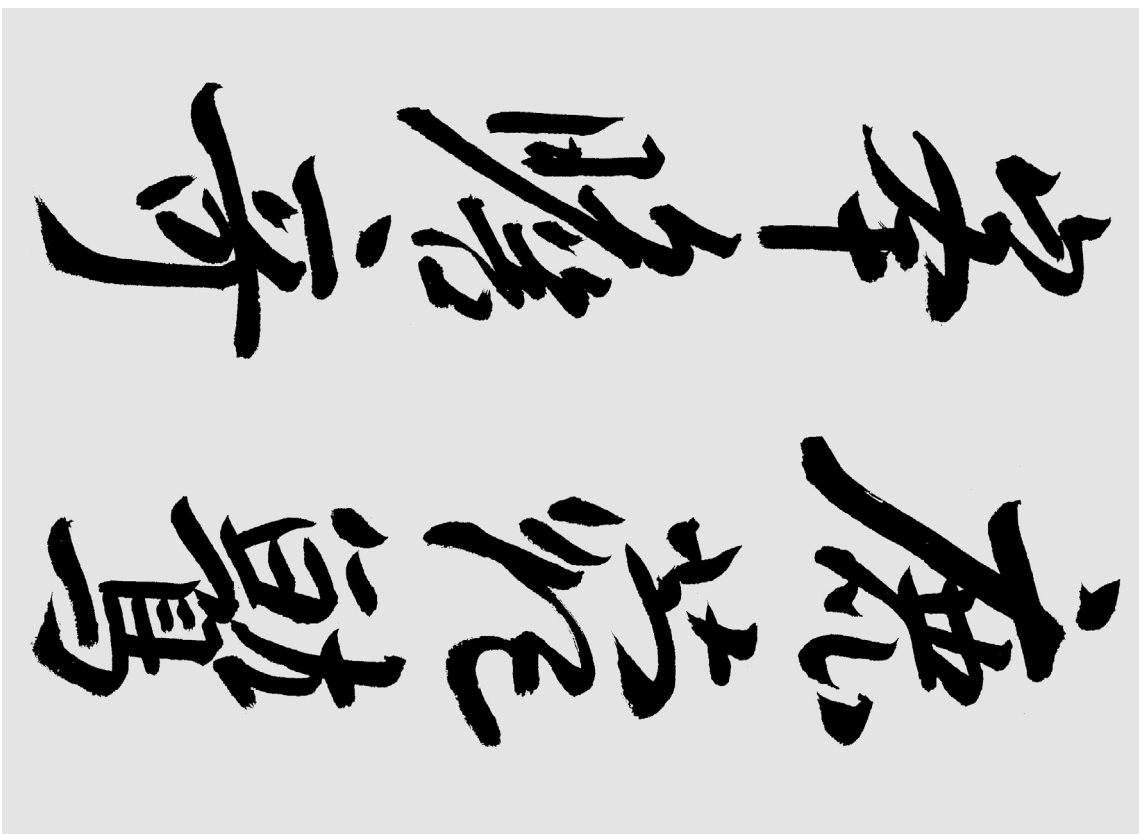
スペインの画家ダリは、1928年に
パリに出てピカソたちと交わった。

岡山県赤磐市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 5月25日 (必着)



【出典】 集字聖教序 (672) 【筆者】 王羲之法書より集字
 【読み】 鹿苑驚峰に、奇を瞻て



新入から1級まで (楷書)
 澤 静 雨
 さわ せい う
 書

【読み】 青山元不動
 【大意】 多事多難の人生に動揺しない。

題課かな筆毛部一般――

締切り 5月25日 (必着)

新入から一級まで

浅井 機山 先生書

準初段から師範まで

■両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

め
目には青葉山ほとゝぎす初はつかつほ

〔出典〕木下利玄^{りげん}

〔歌意〕さわやかな初夏の真昼の野の青草の上に、その影をくっきりとおとして立っている榎の木よ。

山口 典子

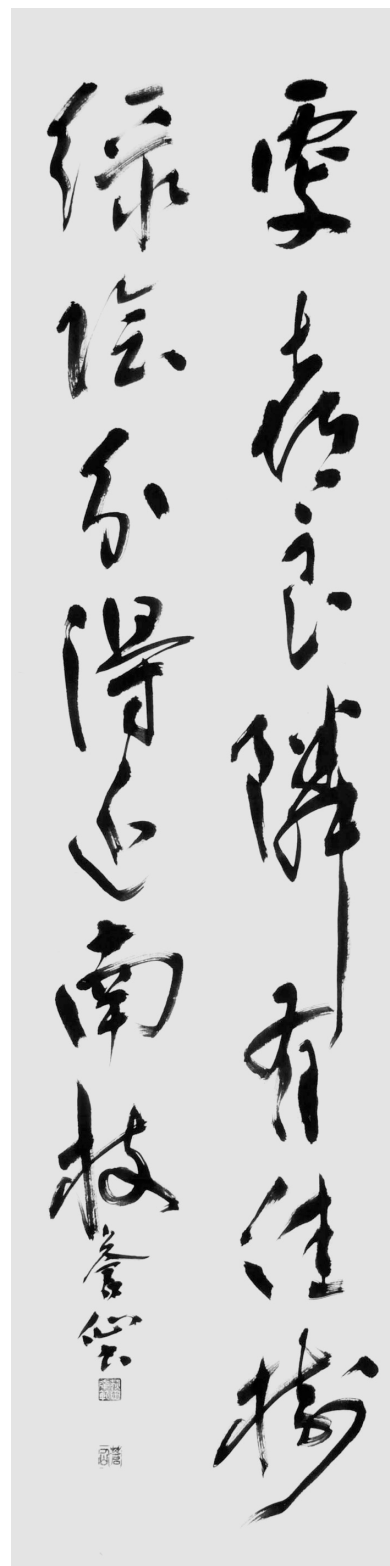
〔何意〕 前書に「かまぐらにて」とある。鎌倉では鰯は名物とされていた。視覚・聴覚・味覚をもって初夏の風物を賞でた句で有名である。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 五月二十五日（必着）

半切（一三六cm×三五cm）



荻田蒼仙書

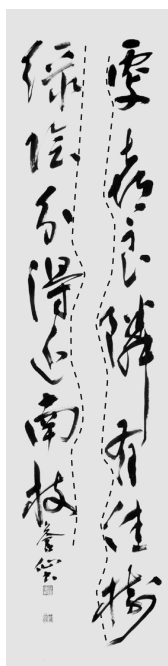
さらによろこぶりようりにかじめるを
更喜良隣有佳樹
りよくいんわちえてなんしにちかし
緑陰分得近南枝

〔大意〕家を買うには
隣家を買うという如く、
良隣を得ることは望ま
しいが、更にその上に
佳樹のあることはこと
に嬉しいことである。

初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔解説〕□○△□……変化した形が統一されてよい作品
になります。そのために一字の外形を囲む「外形法」
で形をつかんで下さい。ともあれ書は線です。先ずツ
ヨイ線です。師や先輩の筆の使い方を見ることが大切
です。



席書大会に初参加した孫が金賞を
もらって喜んでいます緊張の後の
爽快感と記念品に満足のようにです
来年は入賞をと意気込んでいます

席書大会に初参加した孫が金賞を
もらって喜んでいます緊張の後の
爽快感と記念品に満足のようにです
来年は入賞をと意気込んでいます

大里美奈

半紙（334mm×240mm）

〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

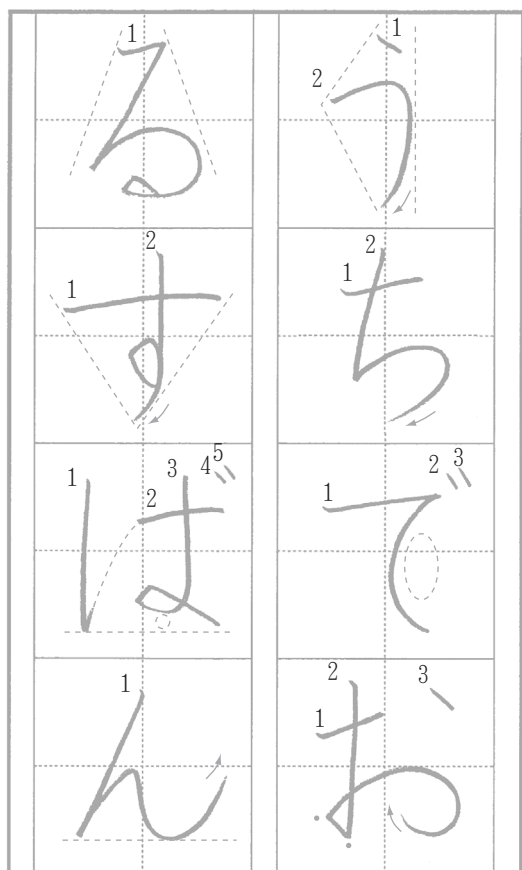
■ 成績（天位〜5等）は、評価により毎月変わります。

■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

・印で墨つきしました。

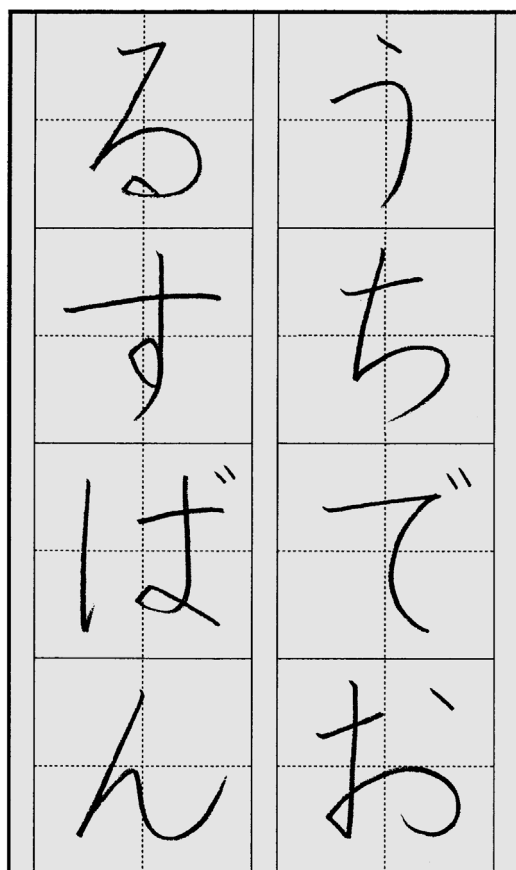
（ご自分の氏名）

〈ようぶく〉自由(黒色)にかざる



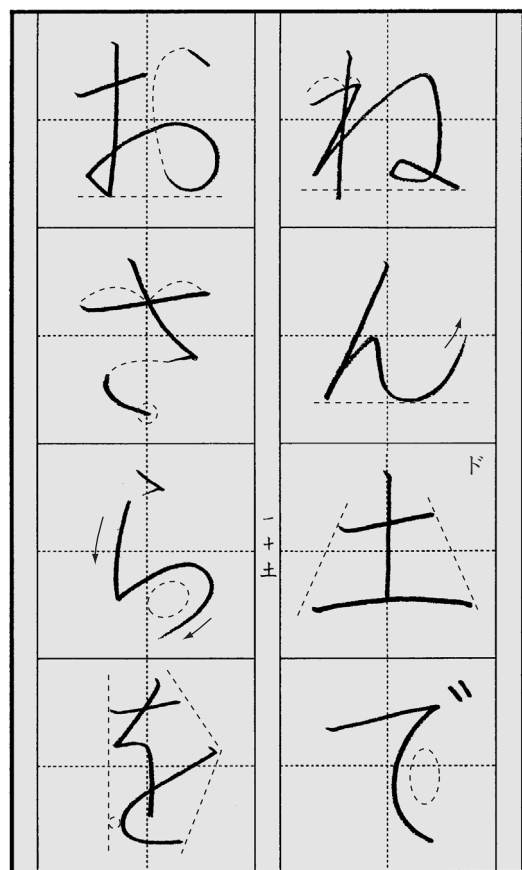
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



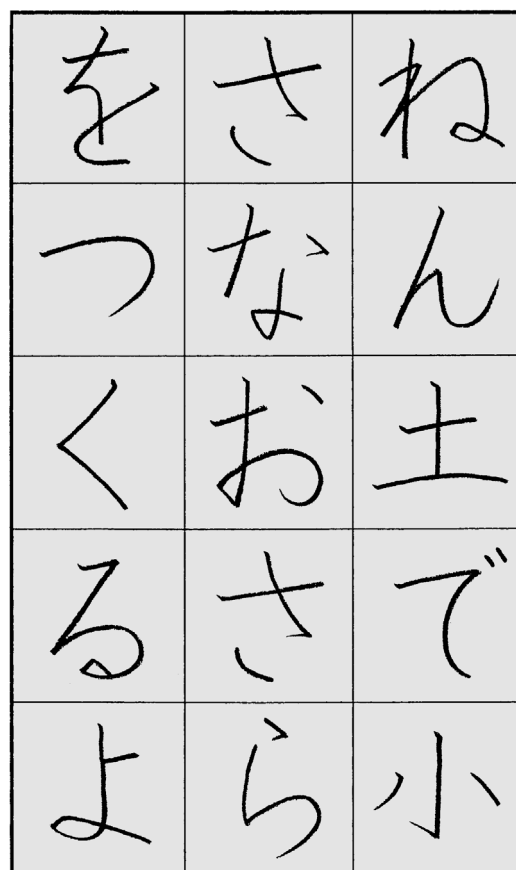
よ
う
年

幼年～小三年
三宅容玉書



新入～1級

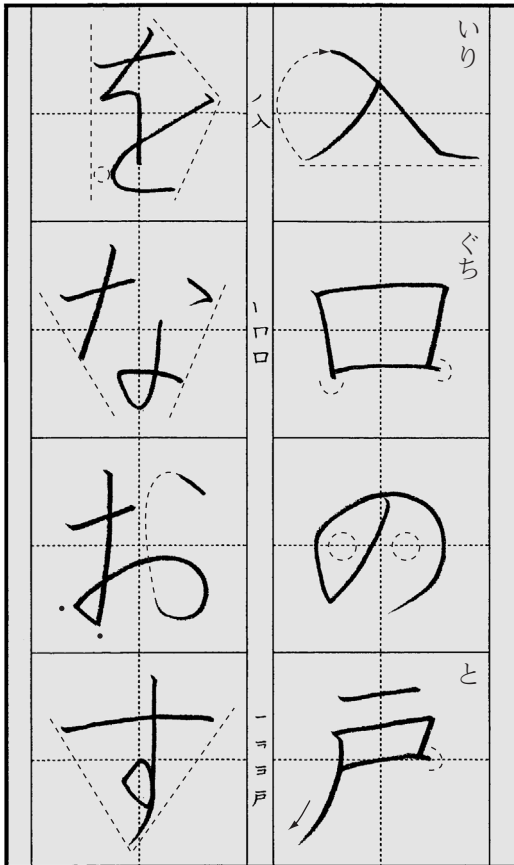
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



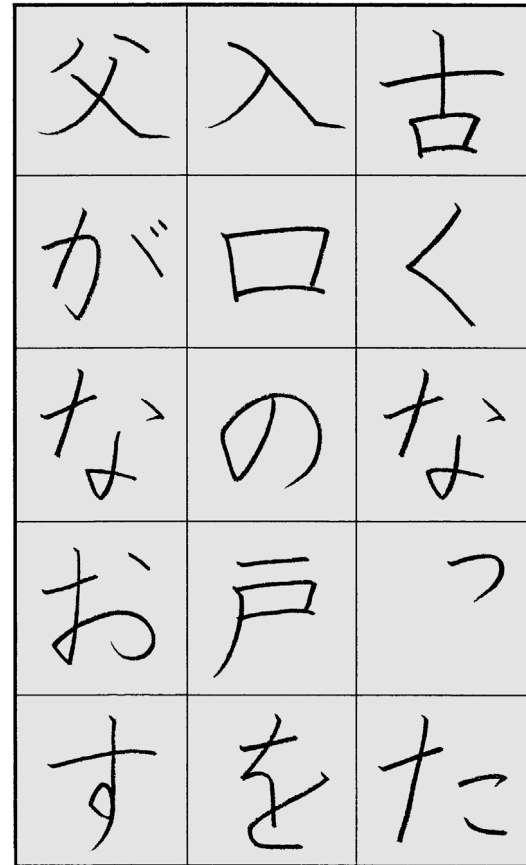
小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

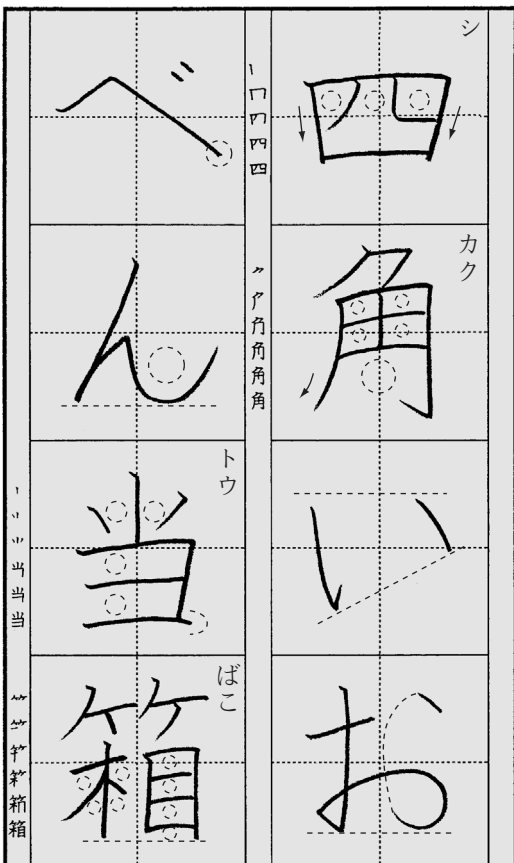


新入1級



小2年

準初段以上



新入1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

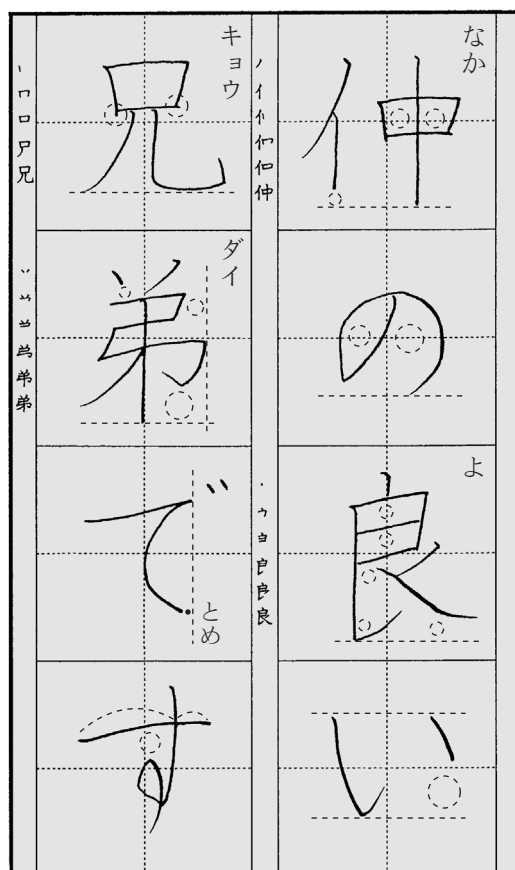


小3年

準初段以上

小 四 年

(全員)



新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

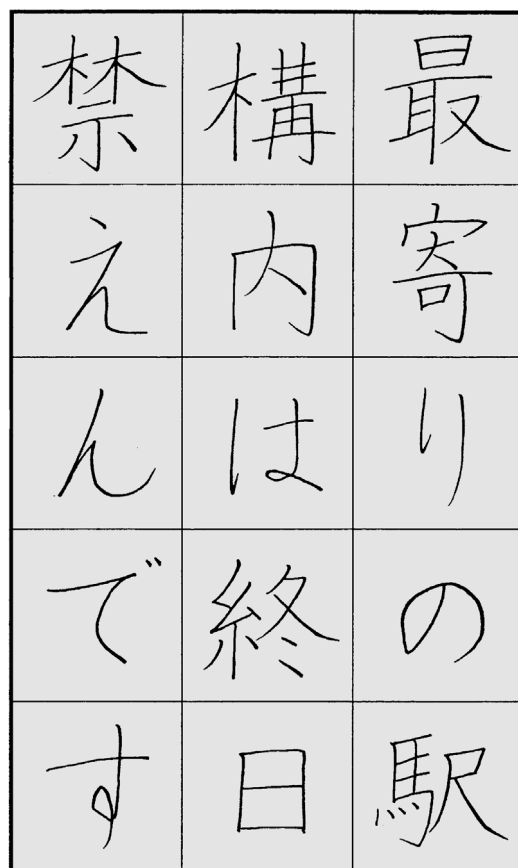
記

- * 用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、いじけないよう、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。
- * 六月締切り分までは、この方法を続けます。
- * ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習をしましょう。
- * 七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

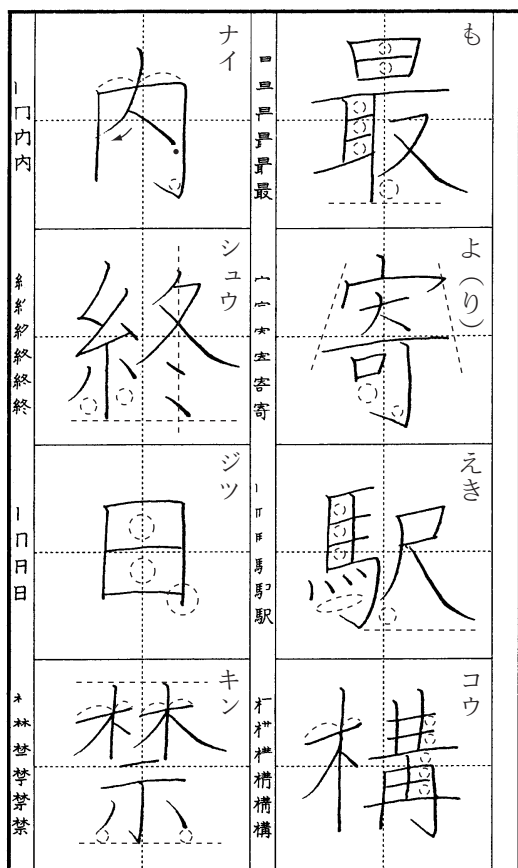
〈用具〉自由（黒色に限る）

小 五 年

(全員)

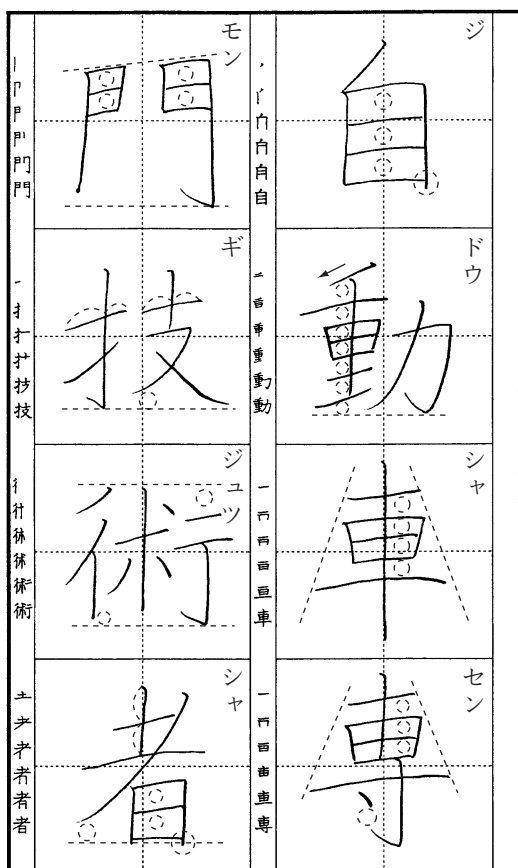


小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



小四以上 須田一葉書

〈ようぐく 自由(黒色に限る)〉



解説(よく見て習いましょう)

小六年



(全員)

◎お手本は、つけペンで書きました。



中二・三年 (楷書)

中一年 (楷書)

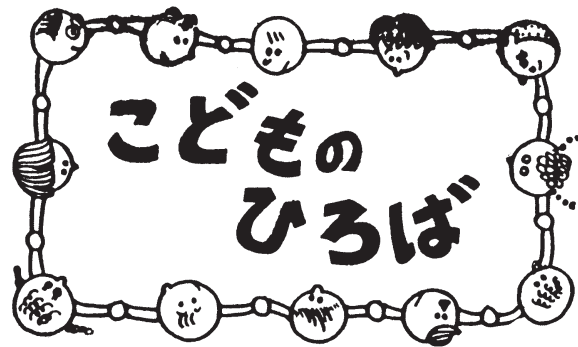
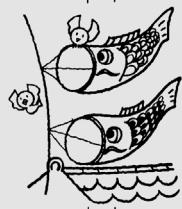


▼小三年以下の課題

はっ 服 部 祐 光 書

こ	な	ゆ	大 ^{おお}	広 ^{ひろ}
い	か	う	き	く
の	よ	ゆ	な	て
ぼ	く	う	青 ^{あお}	
り	泳 ^{およ}	と	空 ^{ぞら}	
	ぐ		を	

◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 5月25日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

やま 山 かど 門 せい 清 せん 扇 書

行 ^い	露 ^ろ	山 ^{やま}	祖 ^そ	大 ^{おお}
き	天 ^{てん}	奥 ^{おく}	母 ^ぼ	型 ^{がた}
ま	ぶ	に	と	連 ^{れん}
し	ろ	あ	一 ^{いっ}	休 ^{きゅう}
た	へ	る	緒 ^{しょ}	は
			に	

◎お手本はつけペン使用

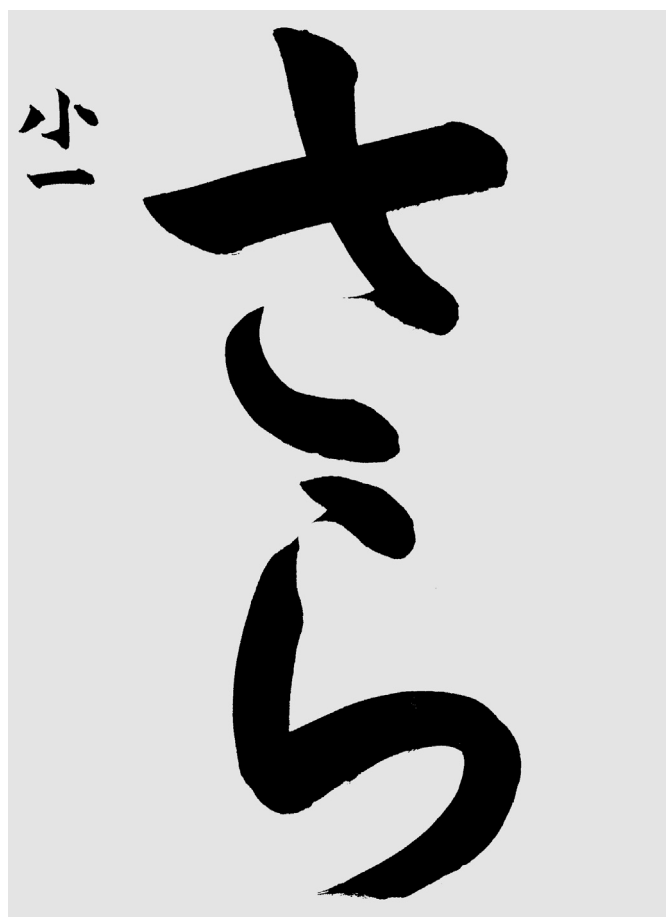
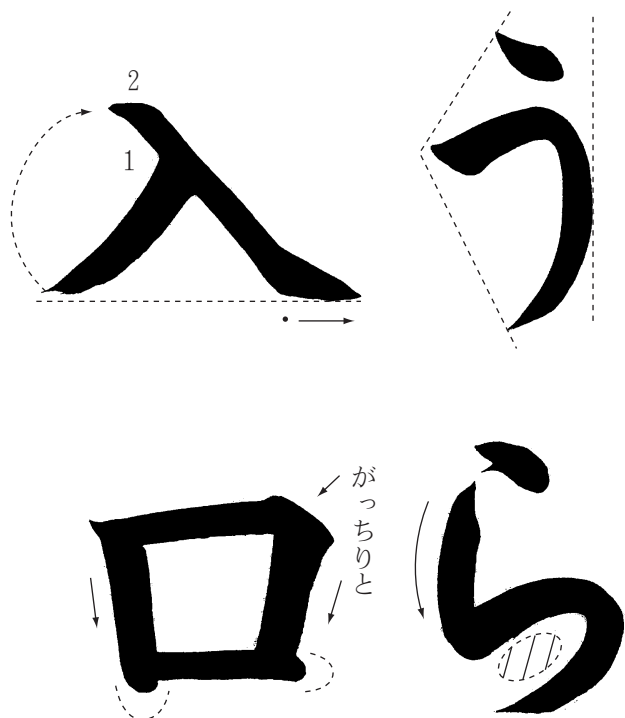


◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



幼年／小二年
玉樹小華書



小五

終日

小三

四角

弟終

四角

日

がっちり

兄

小四

兄弟

小三、小五年

水野香竹書

中二・三

記憶

小六・中二・三年

奥村暢之書

小六

技術

鉄 技術
記憶 砂

1 2 3

のびやかに

中一

砂鉄